






2023 年度 立教サービスラーニング(RSL)実践系科目の概要



<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目「多彩な学び(知識の現場)」科目群 「RSL-コミュニティ(池袋)」 地域社会における多文化共生と相互連帯</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>秋学期:集中(水曜日 3限・13:25～15:05) 事前学習:2023年9月20日、9月27日、10月4日、10月18日(全4回) 現地活動:2023年10月下旬～12月中旬の期間内で各班計6回の活動(日帰り) 事後学習:2023年12月13日、12月20日、2024年1月10日、1月17日(全4回) フィールド:東京都豊島区(池袋地域を中心として)ほか</p>
<p>担当者</p>	<p>福原 充(本学兼任講師)</p>
<p>履修者定員</p>	<p>20名</p>
<p>内容</p>	<p>2014年に23区で唯一、「消滅可能性都市」と指摘された豊島区は、その後、「東アジア文化都市 2019」の国内交流都市に選ばれ、近年では「国際アート・カルチャー都市」として、“まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市”などを掲げたまちづくりの施策が進められている。そして、池袋はその核として、大きな国際化の流れの中にある。</p> <p>この授業では、国際化に対応した都市づくりが行われている豊島区において、多文化共生の地域社会づくりを進める「池袋」を取り巻く歴史・現状・課題を、地域関係者等の支援を得ながら掘り起こすこと、そして、住民との協働を通じて、その課題発見および改善のための仕掛け・仕組みづくりの過程を明らかにしていくことを目的としている。学生は3つのテーマ(「歴史・記憶」「次世代・子育て」「芸術・文化」)のグループを編成し、豊島区(おもに池袋地域)で活動する方々との交流を通じて、それぞれのテーマについての考察を深めていく。</p> <p>学生たちは、豊島区で活動する方々との対話(インタビュー)、地域活動への参加等のフィールドワークを通じて、①池袋の地域特性、多文化共生の現状と課題を理解すること、②自分の関心と池袋の多文化共生の課題との接点を理解すること、③多様な主体との対話を通じて、相手の立場等を理解・尊重した上で、自分の考えを構築できるようになること、そして、④多文化共生をめぐる地域の諸課題を発見し、その改善のための方法を計画できる能力を身につけることが期待されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目 多彩な学び(知識の現場)科目群 「RSL-コミュニティ(埼玉)」 自立と社会福祉－生活困窮者への埼玉県アスポート学習支援－</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>秋学期:集中(金曜日 5限・17:10～18:50) 事前学習:2023年9月22日、10月6日、10月13日、10月20日(全4回) 現地活動:2023年10月中旬～12月中旬の期間内で計8回の活動(日帰り) 事後学習:2023年12月15日、12月22日、2024年1月5日、1月19日(全4回) 〈フィールド:受け入れ先〉 埼玉県内におけるアスポート学習支援事業(学習教室) :一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワークアスポート学習支援事業</p>
<p>担当者</p>	<p>田中 聡一郎(本学兼任講師)</p>
<p>履修者定員</p>	<p>15名</p>
<p>内容</p>	<p>厚生労働省によると、日本で貧困状態にある子どもの割合は、現在7人に1人といわれている。特に相対的貧困として語られる日本の社会状況では、子どもの貧困は可視化することが難しく、様々な事情から学びたいのに学べない、学ぶ意欲が持てない子どもたちが社会から置き去りにされている現実がある。</p> <p>この授業では、サービスマーケティングの手法に基づきながら埼玉県内の生活困窮世帯に暮らす、小中学生の学習支援事業への参加を通じて日本の社会保障制度の中心的政策のひとつである生活保護制度の運用実態に触れるとともに、貧困と格差、社会的包摂等を巡る諸問題についての理解を深めることを目標としている。</p> <p>学内での事前学習では、生活保護制度や子どもの貧困について学習し、学外での活動として、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークが主催する「アスポート学習支援」(学習教室)に、学習支援ボランティアとして履修者が参加する。また、事後学習として、「アスポート学習支援」のスタッフの方を交えた学びの報告会を実施し、学生と活動先、それぞれの立場からみえたことを言語化し共有する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目 多彩な学び(知識の現場)科目群 「RSL-ローカル(南魚沼)」 雪掘りと農村交流を通して持続可能な社会を考える</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>秋学期:集中 事前学習:2023年12月9日(土)13:30~17:30(全1回) 現地活動:2024年2月4日(日)~2月7日(水):4日間(宿泊) 事後学習:2024年2月24日(土)13:00~16:00(全1回) 〈フィールド:受け入れ先〉 新潟県南魚沼市清水集落・栃窪小学校他:特定非営利活動法人 ECOPLUS</p>
<p>担当者</p>	<p>高野 孝子(本学客員教授)</p>
<p>履修者定員</p>	<p>15名</p>
<p>内容</p>	<p>この授業では、過疎高齢化の進む農村での体験的な学習を通して、現代社会の構造を知り、自然と人間の関係や本質的な豊かさについて問い直し、持続可能な社会の実現について考えることを目的としている。</p> <p>現地活動は、世界有数の豪雪地である新潟県南魚沼市でフィールドワークをおこなう。一般に「雪下ろし」「雪かき」と呼ばれる除雪作業のことを、現地では、「雪掘り」と呼ぶ。これは、雪の量が多く、「掘る」ような作業が多いためである。南魚沼地域の真冬の生活は厳しい自然との共存が求められ、それゆえに独特の文化が営まれてきた。また、厳しさがある冬の生活の一方で、今なお自然豊かな南魚沼地域には、四季折々に移り変わる美しい景色と「食」の恵みがある。</p> <p>学生たちは、雪掘りの方法を地元の人たちに教えてもらい高齢者世帯などの除雪を手伝ったり、地元の小規模小学校(複式学級編成)への訪問、家庭訪問、雪と触れ合う活動などを通して、地域に住む人々と交流する。これらの活動を通じて、雪国で暮らすとはどういうことなのか、自然と共存した生活とは何か、コミュニティの意味とは何か、伝統知や地域文化とは何か、社会における市民としての役割を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目「多彩な学び(知識の現場)」科目群 「RSL-ローカル(地域共生)」 SOCIAL&PUBLIC (SDGs とグローバルの可能性と実践からウェルビーイングへ)</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>春学期:集中 事前学習:2023年6月21日、6月28日、7月5日、7月12日 水曜日・3限(13:25~15:05)(全4回) 現地活動:2023年8月2日(水)~8月6日(日):5日間(宿泊) 事後学習:2023年8月23日(水)13:30~20:30(全1回) <フィールド:受け入れ先> 埼玉県熊谷市:埼玉福興株式会社、有限会社 PUBLIC DINER</p>
<p>担当者</p>	<p>加賀崎 勝弘(本学兼任講師)</p>
<p>履修者定員</p>	<p>15名</p>
<p>内容</p>	<p>SDGs は「持続可能な社会」と同時に「誰ひとり取り残さない社会」を目標としており、SDGs が掲げる 17 の目標(Goal)は相互に関連しあっている。例えばしょうがい者であることで社会参加ができないという課題に対しては、人にあわせた仕事の創出等の工夫により、Goal「3.すべての人に健康と福祉を」、「8.働きがいも経済成長も」、「9.産業と技術革新の基盤づくり」、「11.住み続けられるまちづくり」といった複数の Goal へのアプローチが可能となる。</p> <p>この授業では、埼玉県熊谷市でのフィールドワークを通して、SDGs とグローバルの可能性について体験的に学び、SDGs の掲げるこれらの Goal を自分ごととして理解し、課題解決に必要な視点や方法を身につけることを目標としている。</p> <p>現地活動では、しょうがい者等の雇用による農業生産(農福連携)に取り組むソーシャルファーム「埼玉福興株式会社」と“地域を食でデザインする”をコンセプトに活動する飲食店「PUBLIC DINER」の協力を得てしょうがい者との農作業(水耕栽培、夏野菜の収穫等)やワークショップ、草木染などを体験し、「農産物」の生産、「食材」の調理、「食品(商品)」として消費者に提供されるまでの食を巡る一連の過程への理解を深めるとともに地域における社会的包摂のあり方について実践の中から五感で学んでいく。</p> <div data-bbox="395 1518 880 1883"> </div> <div data-bbox="880 1644 1385 2022"> </div>

<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目「多彩な学び(知識の現場)」科目群 「RSL-グローバルA」 実践SDGs－河川/海洋ごみ問題の現場から学ぶ社会課題－</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>秋学期:集中 事前学習:2023年12月4日、12月11日、12月18日 月曜日・3限(13:25～15:05)(全3回) 現地活動:2024年2月5日(月)～2月7日(水)、2月10日(土)、2月11日(日) 5日間(日帰り) 事後学習:2024年2月19日(月)、2月20日(火) 3限(13:25～15:05)(全2回) 〈フィールド:受け入れ先〉 荒川河川敷(東京都江戸川区):特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム</p>
<p>担当者</p>	<p>今村 和志(本学兼任講師)</p>
<p>履修者定員</p>	<p>20名</p>
<p>内容</p>	<p>この授業では、世界的に注目されている「海洋ごみ問題」が、私たちの身近な社会課題と相互につながっていることを、大学での講義、現場でのフィールドワークを通じて理解し、その解決に向けた取組を実践することを目的としている。具体的には、荒川河川敷をフィールドとして、国内屈指の流域人口密度を誇る「荒川」が抱える社会課題の1つである「河川ごみ問題」に焦点を当て、当該問題が生じる原因を講義で学び、解決に向けた「河川清掃イベント」を計画し、実際に、そのイベントの運営を行う。そして、現場・現実・現物の視点からSDGsの掲げるGoal「12.つくる責任、つかう責任」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」について考える。</p> <p>河川清掃イベントの企画運営に関しては、①事前に、社会課題としての河川/海洋ごみの問題についての学習を行い、インターネットを活用して荒川清掃イベントの広報やマーケティングを行う。②荒川河川敷での現地地下見、草刈りなどの安全管理、埋没した河川ごみのかき出しなどの現場整備、当日のイベント運営、自治体へのごみ処理手配など、イベント運営の全体を経験する。③社会課題としての「河川ごみ問題」の啓発活動について、自分たちの河川清掃の様子を動画で撮影し、ショート動画を作成することを通じて実践的に学ぶ。</p> <div data-bbox="475 1592 1251 1989" data-label="Image"> </div>

<p>科目名 (2単位)</p>	<p>全学共通科目「多彩な学び(知識の現場)」科目群 「RSL-グローバル(フィリピン)」 Rikkyo Service Learning Program in the Philippines</p>
<p>日程 フィールド (2023年度)</p>	<p>秋学期:集中 事前学習:2023年9月30日(土)、12月16日(土) 14:00~17:00 (全2回) 現地活動:2024年2月4日(日)~2月17日(土):14日間(宿泊) 事後学習:2024年3月1日(金) 14:00~17:00 (全1回) 〈フィールド:受け入れ先〉 フィリピン・ケソン市(マニラ近郊):フィリピン・トリニティ大学</p>
<p>担当者</p>	<p>中沢 聖史(RSLセンター特任准教授/RSLセンター副センター長)</p>
<p>履修者員</p>	<p>15名</p>
<p>内容</p>	<p>この授業では、立教大学のグローバル・ネットワークであるCUAC(世界聖公会大学連合会)とフィリピンのトリニティ大学が実施する2週間のサービスマーニングのプログラムに参加し、トリニティ大学周辺の地域社会(Barangay)における現地活動を中心に、活動後の大学での講義とワークショップを通じて、学生は、それぞれが配属されたフィリピンの地域社会の課題への支援を行う。具体的には、①女性の生計向上の支援(Bgy. San Domingo)、②高齢者の健康増進の支援(Bgy. Kalusugan)、③子どもの就学前教育の支援(Bgy. Kalusugan)、④「子どもの健康と衛生状態の改善の支援(Araneta630, Bgy. Tatalon)、⑤ごみ問題対策・リサイクルの支援(Bgy. Roxas)のいずれかの活動に継続的に参加し、その活動を通じて、地域特有の課題の特徴や社会現実についての理解を深めていくことが期待されている。</p> <p>このプログラムのもう1つの特徴は、韓国、フィリピン、インド、日本という、アジアの国々からの多様な学生が参加し、現地滞在中は、10人程度の小グループでの活動を行うことである。学生たちは、地域社会での活動や大学での授業のほかにも、開会式や閉会式などのセレモニー、出身国の文化紹介パフォーマンス、チーム対抗のスポーツ大会、マニラ市内の観光ツアー、2週間の学生寮での生活等を通じて、参加者同士の親密な交流を行う。そして、アジアの国々からの参加者との協同の下、国際的な雰囲気の中で、フィリピンの社会課題について学び、その課題解決の意義と方法を考えていく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>